

## 今シーズンのA群ロタウイルスの解析状況について

### <A群ロタウイルスの調査について>

当センターでは、A群ロタウイルス（RVA）の遺伝子型の解析を継続して実施しています。2011年からロタウイルスワクチンの任意接種が始まったことでウイルスの流行株にどのような影響を与えるのか、流行状況を含めて調査しています。ワクチン接種開始後の2013/14シーズン（例年9月～8月までの1年を「シーズン」としてしています。）には患者数は激減しましたが、2014/15シーズンにはG1型を主とする流行が見られ、昨シーズン（2015/16シーズン）には、G2型がこれまでの調査で初めて主流株になりました。今シーズンも、引き続き、G2型の流行が続いているようです。

今シーズン（2016年9月～2017年4月）のRVA解析状況についてお知らせします。

### <調査結果>

感染症発生動向調査でRVAを検出した45例について亜型解析を行いました。検出したRVAの遺伝子型は、G2型が32例（71%）、G3型が12例（27%）、G9型が1例（2%）で、G1型はまだ検出がありません。G2型ばかりが流行した昨シーズンに比べると、G3型が多くなっています。なお、全国の遺伝子型別検出状況では、G2型が最も多く、ついでG9型が多くなっており、奈良県とは少し異なります。

患者年齢は、0歳7例、1歳9例、2歳5例、3歳7例、4歳5例、5歳3例、6歳5例、7歳2例、10歳以上2例でした。2歳以下が80%以上を占めていた12/13シーズンと比較すると、3歳以上の割合が多くなっており、昨シーズンに引き続き、平均の患者年齢は3.6歳と高くなっています。なお、ワクチン接種済みの患者が15例（33%）ありました。ワクチン未接種の患者では、脱水症状や症状の悪化により入院を要する事例も報告されています。ワクチン接種を行っていても、発症し、胃腸炎などの症状が出現することもあります。軽症で済むことが多いとされています。

今後も継続したウイルス動向のデータを蓄積し、県内の流行の変化・変動を詳細に解析・把握に努めていきたいと考えています。奈良県感染症発生動向調査にご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

